

**ロケーション部会報告**  
**デジタルサイネージ白書2012**  
**発行についてのお願い**



# 今回の白書発行の狙い

**会員内外にデジタルサイネージと  
DSCの活動を広くPR**

## 編集委員会 組織と役割

### ■発行事務

- 発行人：中村理事長
- 発行事務局長：石戸、発行事務委員：佐野、藤崎

### ■編集管理

- 編集管理委員長：筑瀬(シスコシステムズ)
- 編集副管理委員長：吉田(オリコム)
- 編集管理委員
- システム部会：喜多村(フジフィルム)、
- プロダクション部会：宿院(ニューフォリア)
- 指標部会：野原(ビデオリサーチ)、
- ロケーション部会：三瀬(フジフィルム)
- 国際標準化戦略部会：佐々木(三菱総研)
- ■編集執行(プロの編集者)：編集執行委員長：橋爪(サードリーム)、  
編集執行副委員長：まさき(Dream Creation)

## 部会執筆枠(テーマ案)

- システム部会:「サイネージとスマホの連携モデル」
- プロダクション部会:
  - 「デジタルサイネージアワード受賞者インタビュー」
  - 「災害時におけるサイネージのコンテンツについて」
- 指標部会:「効果指標 実証実験事例」
- ロケーション部会:「国内事例インタビュー」
- 国際標準戦略部会:日本発の国際標準

# 企業掲載枠(PR枠)

会員企業のデジタルサイネージに関する取り組みを紹介

- 今回の白書は、より多くの方に手に取って頂けるよう、**DL版は0円、印刷版も1980円**という廉価で販売。
- **1. DL版(ダウンロード版)/電子版(無料)**
- DSCのホームページから電子ブック形式で会員・非会員問わず、誰でも閲覧できるようにし、ファイル(PDF)も取り込めるようにしたい。
- **2. 印刷版(製本版)(1,980円) ※モノクロ印刷**
- DSJ2012会場や、amazonでも販売することを検討。

**出稿費：2ページ4万円 もしくは4ページ8万円**

**4ページ以上の掲載も歓迎だが、奇数ページのご出稿は編集上設定しない。**

**※なお、今回は会員様のご紹介の上で、会員外からの出稿も可能とする。その場合は、出稿費が2倍の8万円 / 2P or 16万円 / 4P**

**ご出稿いただける企業様には内容を記載いただくフォーマットを別途送付。**

**お申し込みと原稿〆切は**

**申込み〆切 : 3月26日(月) 12時**

**原稿提出〆切: 4月6日(金) 12時を予定**

## 6.40 街で、駅で、そしてお店で

三菱電機株式会社 戦略事業開発室 阿良田 剛

三菱電機は、15型のPC用モニターから4255型のオーロラビジョンまで、民生用から業務用までの約30年間にわたり、映像ビジネスを展開しています。特に業務用映像システムでは、日本だけでなく、世界中に様々な納入実績があります。デジタルサイネージでは、スタジオアルタ様を代表とする街頭大型ビジョンで採用されているLED大型映像ディスプレイ「オーロラビジョン」やすでに数多くの鉄道車両内に設置され、乗客の日常の情報源として広く定着している「トレインビジョン」などの実績があります。



資料 6.40.1 スタジオアルタ



資料 6.40.2 トレインビジョン

### 6.40.1 三菱電機グループのデジタルサイネージソリューション

デジタルサイネージは、「いまだけ、ここだけ、あなただけ」に伝えられるメディアで、さまざまな目的を持った効果的な映像情報を送り届ける手段として、注目されています。そのためには、場所や時間、シーンに合わせて、最適なコンテンツとディスプレイ・システムを組み合わせることが重要です。

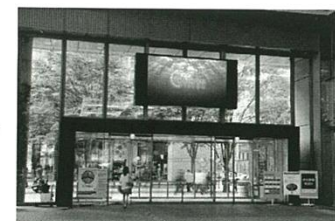
三菱電機グループは、全天候対応の高輝度屋外用大型ディスプレイ「オーロラビジョン LED」、世界で初めて有機 EL を発光素子に用い、曲面对応も可能な「オーロラビジョン OLED」、その他液晶マルチ大画面表示装置、データプロジェクター、液晶ディスプレイまで、お客様のあらゆるニーズに対応できる多彩な映像ディスプレイラインアップ。また大規模システム向け HD コンテンツ配信システム「MEDIAWAY」から小規模システム向けメディアプレーヤー内蔵液晶ディスプレイ「VISEO SMART」まで規模に合わせたシステムをご提供できます。加えて、導入前のコンサルティングからコンテンツの企画・制作、システム構築、運用管理、保守までワンストップでご提供します。

オーロラビジョン LED	オーロラビジョン OLED	DLP方式 プロジェクターシステム	データ プロジェクター	液晶マルチ 大画面表示装置	液晶ディスプレイ	液晶テレビ
100型×	88型×	50型～300型	40型～300型	46型～390型相当	17型～65型	19型～55型

資料 6.40.3 三菱電機の映像ディスプレイラインアップ

### 6.40.2 三菱電機グループのデジタルサイネージソリューション

大規模システム向けのデジタルサイネージは、高い信頼性が必要な場所や用途(広告・インフォメーション)で使用されることから、三菱電機では HD コンテンツ配信システム「MEDIAWAY」を提供しています。独自のスケールフリー配信により、コンテンツを従来の1/5の時間で配信可能なハイビジョンコンテンツ配信に適した映像情報配信システム。ストリーム配信と蓄積配信とのハイブリッド配信で効果的な画面表示を実現。独自の高性能描画エンジン搭載で多彩な表現に加え、複数面での同期表示・マルチ表示が可能です。配信端末数は最大3000台まで可能です。



資料 6.40.4 三菱地所様「丸の内ビジョン」

### 6.40.3 店舗・店頭向けデジタルサイネージ

店頭・店頭向けのデジタルサイネージは、低コストですぐに設置・使用できることが求められています。そこで三菱電機ではメディアプレーヤー内蔵液晶ディスプレイ「VISEO SMART」を2011年5月から販売を開始しました。

VISEO SMART は液晶ディスプレイにメディアプレーヤーを内蔵。デジタルサイネージに必要な機能をオールインワンパッケージで提供。低コストですぐにデジタルサイネージが始められます。

専用取り付けオプションにより、天井・壁掛け

といったサイネージシーンを手軽に実現できます。また無線 LAN も内蔵ですので、有線でのネットワーク配線は不要です。個人商店からスーパー、チェーン店まで、あらゆる店舗で力を発揮します。



資料 6.40.5 設置イメージ



## 第6章 各論

### 6.3 エリア・メディアとしてのデジタルサイネージ

株式会社イエロー 代表取締役 高尾雅彦

株式会社イエローのデジタルサイネージへの取り組みは1996年株式会社富士通のPDP企業向けプレゼンテーション用コンテンツ制作から始まった。2001年、三菱地所株式会社から広域丸の内への映像配信メディアの開発を受注。Marunouchi Visionを実現した。

#### 6.3.1 エリア・メディア・スタイル

イエロー[作成者5]がコンサルティングをして実現させたMarunouchi Visionは2002年9月丸ビルのリニューアルオープンとともに誕生した。IPマルチキャストを用いたハイビジョン映像のネットワークとしては世界初である。何もかもが初めての試みで配信テストなどに数ヶ月を要した。当時はハイビジョンを扱えるSTBが存在しなかったためメーカーに特注する事で実現した。現在は蓄積とストリーミング配信の出来るハイブリッドなシステムに更新されている。2011年3月現在、大手町・丸の内・有楽町のビルのエントランスやショーウィンドウ、エレベーターホールなどに32インチ〜166インチのモニターを約80ヶ所に設置しており、8時から22時迄14時間ハイビジョンの映像を上映している。この大手町・丸の内・有楽町エリアには約4,000社のリーディングカンパニーが集積し23万人を超える高感度なビジネスワーカーがいる。推定ビジネス来訪者は47万人。また新たに生まれ変わったこのエリアにはショッピングや飲食、アートを楽しむ新しい来街者も急増している。(資料6.3.1)

そんな人々へ向けての映像は単に情報というだけでなく、上質なイメージを持った映像であり「丸の内」という街のムードも高める役割を持っている。エリア・メディアはそのエリアの環境や特性に合わせて形が変わらなければならない。建形を元にデータを差し替えただけの映像ではオリジナリティーのあるエリア・メディア・スタイルを作り出すことが出来ないものである。



資料6.3.1  
丸ビル1階丸キューブ  
166インチLED

エリア・メディアはそのエリアの環境や特性に合わせて形が変わらなければならない。建形を元にデータを差し替えただけの映像ではオリジナリティーのあるエリア・メディア・スタイルを作り出すことが出来ないものである。

最大文字数:43文字×28行  
(写真1の割合)

最大文字数:43文字×37行  
(写真2の割合)

この割合の写実スペース:1.25分

この割合の写実スペース:1.95分

#### 6.3.2 エリア・メディア・コンテンツ

Marunouchi Visionで現在上映しているコンテンツはエリアの店舗情報やイベント告知、イベントの生中継、エリアのNEWS、三菱一号館美術館の展覧会情報、ブックランキング、共同通信社のNEWS・天気予報、一般企業のCMなどがある。Marunouchi Visionは小型のハイビジョン撮影機材を有しているためエリア取材などはディレクターが一人で機材を持って取材に行くことが多い。小回りの利く制作体制こそがコンテンツを充実させるのである。資料1.1.1は「硫黄島／奄美大島 皆既日食」インターネットライブ中継を事前打合せの上、再配信した例である。将来的にはUstreamやYouTubeなどインターネット上の動画もエリア・メディアのコンテンツとしてなり得る可能性を持っていると考え、現在イエローでは様々なテストを行っている。

#### 6.3.3 交通媒体等のコンテンツ

冒頭にも書いたが1996〜1997年頃、未来を夢見て鉄道会社にも数多くプレゼンテーションをしていた。それらが今まさに現実となっている。イエローはそれらのメディアのコンテンツも制作している。またそれとは別に電車内の吊り広告(AERA)のデジタルデータをもとに、アニメーションを付けエリア・メディアに上映するという新しい試みも行っている。

そんな人々へ向けての映像は単に情報というだけでなく、上質なイメージを持った映像であり「丸の内」という街のムードも高める役割を持っている。エリア・メディアはそのエリアの環境や特性に合わせて形が変わらなければならない。建形を元にデータを差し替えただけの映像ではオリジナリティーのあるエリア・メディア・スタイルを作り出すことが出来ないものである。(資料6.3.2)



資料6.3.2 Marunouchi Visionのコンテンツから

またここで特筆すべきコンテンツは震災災害時のコンテンツである。Marunouchi VisionではNHKや共同通信社など各メディアと事前に打合せをし震災時には従業員や来街者に即時緊急情報を提供出来るシステムとなっている。この度の「東北関東大震災」発生時も、約10分後にNHKに切り替えた。



サマリー	この白書に書いてあること 2011年を振りかえる(消えたサイネージ画像)	
巻頭	中村理事長(発刊にあたって)(サマリーも書いてもらう)	
デジタルサイネージコンソーシアム(事務局)		3P
デジタルサイネージとは		
デジタルサイネージジャパンとは(2011より)		7P
デジタルサイネージアワード(プロダクション部会)	災害時コンテンツガイドラインも	6P
伊能専務理事	デジタルサイネージ、日本の現状と未来像(仮)	5P
江口常務理事	マルチスクリーン時代のデジタルサイネージ(仮)	5P
部会執筆枠		
■事例		
	ロケーション部会:国内事例インタビュー	15P
■効果	プロダクション部会:効果的コンテンツ事例	10P
	指標部会:効果指標 実証実験事例	10P
■未来	国際標準化戦略部会:日本発の国際標準	10P
	システム部会:サイネージとスマホの連携モデル	10P
企業のデジタルサイネージに関する取り組み紹介 掲載枠		
ストーリー立てた形で各社のPR	各社2頁もしくは4頁	100P
2011年 デジタルサイネージニュース(事務局佐々木)		
DSC会員一覧		5P

## ページ構成(案)

1. 中村理事長	巻頭言(発刊意図、白書とは、2011年度を振り返って)
2. プロダクション部会	デジタルサイネージジャパンとは(DSJ2011より)
3. プロダクション部会	デジタルサイネージアワード受賞者インタビュー
4. 伊能専務理事	デジタルサイネージ、日本の現状と未来像(仮)
5. 江口常務理事	マルチスクリーン時代のデジタルサイネージ(仮)
6. 事例	ロケーション部会:国内事例インタビュー プロダクション部会:効果的コンテンツ事例
7. 効果	指標部会:効果指標 実証実験事例
8. 未来	国際標準化戦略部会:日本発の国際標準
9. ソリューション	システム部会:サイネージとスマホの連携モデル
10. 企業掲載枠	各社のデジタルサイネージに関する取り組みを紹介
11. 事務局佐々木さん	デジタルサイネージ・クロニクル
12. 事務局	DSC会員一覧と既刊一覧
13. 事務局	デジタルサイネージとDSCとは

